

第102回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成29年 4月21日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第102回船員部会

日 時 平成29年4月21日（金） 15：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：長谷部部会長、高橋(真)部会長代理、
佐々木委員、森委員
労働者委員：正路委員、高橋(雅)委員、津田委員
使用者委員：齋藤委員、白幡委員（欠席）、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長、阿部海事振興部次長
和田船員労働環境・海技資格課長
澤村船員労政課長、大友労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について
(2) その他

配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（平成29年2月分）
資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
資料4 新規求人・求職数（全国）
資料5 有効求人・求職数（全国）
資料6 有効求人倍率（東北管内）
資料7 有効求人倍率（全国）
資料8 海技者セミナー参加事業者募集プレスリリース
資料9 人事異動
資料10 新聞情報

(参考資料) 2017 東北運輸局 交通・観光主要施策

議 事 概 要

◎開 会

【阿部海事振興部次長】

議事に入ります前に、4月1日付けで東北運輸局に人事異動があり、海事振興部長の交替がありましたので、新部長の畠山からご挨拶申し上げます。

【畠山海事振興部長】

4月1日付で東北運輸局海事振興部長を拝命した畠山でございます。よろしくお願いたします。

それでは、一言ご挨拶申し上げます。

長谷部会長を初め、委員の皆様におかれましては、日頃より船員分野はもとより海事行政全般にわたりご高配を賜り、誠にありがとうございます。この場をおかりして御礼申し上げます。

さて、船員の問題につきましては、改めて申すまでもなく、船員の担い手不足と高齢化が進み、将来を担う若年船員の確保・育成が急務になっております。東北運輸局といたしましては、離職船員の再就職支援を行うとともに、高校生を対象とした学校訪問、それから出前講座を実施するほか、海技者セミナーなどの活動を通じて、引き続き人材の確保・育成に努めてまいります。

委員の皆様におかれましては、今後とも、船員はもとより海事行政全般にかかわるさまざまなご意見やご助言を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

【阿部海事振興部次長】

〔その他の関係する人事異動について報告〕

〔第102回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第の「議題(1)管内の雇用等の状況について」、事務局からお願いします。

〔澤村船員労政課長から資料1～7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございました。

ただいまの報告内容につきまして、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。有効求人倍率だけはいいけれども、全体としては低迷だということですね。先ほど畠山部長が言われたとおりの問題を抱えているということがわかると思います。

何かありませんか。

【正路労働者委員】

失業保険の支給状況についてですが、前月より24件減っていますが、その理由は再就職したというよりも、支給期間の満了により減ったものと思われま。支給期間が満了した方については、求人倍率が高い状況なので就職・職業相談に乗っていただければと思います。

【澤村船員労政課長】

はい。承知しております。

【長谷部部会長】

ほかにはいかがでしょうか。

ありませんでしたら、ご了承いただいたということで、次に進んでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

（2）その他

【長谷部部会長】

それでは、続きまして、「議題の（2）その他」に入ります。事務局から何かありましたらお願いします。

〔澤村船員労政課長から資料8に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございました。

今の説明につきまして、何かご意見等ございますでしょうか。

【森公益委員】

本校、宮古海上技術短期大学校ですが、1年生が45名います。海技者セミナーには本校から毎年1年生を参加させていますので、今年も1年生を全員参加させたいと思います。

また、参加した学生のモチベーションが非常に高く、学生に海技者セミナーの評判がいいので、今後も毎年参加させたいと思います。よろしくお願いします。

【長谷部部会長】

それでは、森委員からの話もありましたように、供給側と需要側がお互いに盛り立てていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

ほかにごございますでしょうか。

ありませんでしたら、このアナウンスもご了承いただいたということで、次に進

みたいと思います。

次は、委員の皆さんからの情報提供です。それでは、労働者委員のほうからお願いいたします。

【高橋（雅）労働者委員】

前回もお話ししました日本カーフェリー、内航2団体、全内航の労働協約の改定状況につきましては、3月31日に妥結しました。

妥結の内容は、日本カーフェリーが基本給については標令給を900円アップ、ほかに船内衛生手当等を50%アップ、水先慰労金を5%アップという内容です。

内航2団体のほうは、こちらと同じように標令給を900円アップ、あとは退職手当の勤務年数の上限の撤廃・改善に向けて引き続き協議するという内容です。また、年間臨時手当を42.3割として、昨年対比で0.1割増という内容です。

全内航につきましては、陸上休暇の買い上げ率を0.5%アップの6割とし、基本給については標令給を内航2団体と同じ900円アップ、家族手当は配偶者について3,000円、これは100円アップです。子供については1,700円、250円アップという内容です。こちらの年間臨時手当についても、前年比で0.1割アップして39.7割となっております。

以上です。

【長谷部部長】

妥結したのですね。

【高橋（雅）労働者委員】

はい、妥結しております。

【長谷部部長】

わかりました。ありがとうございます。ただいまのご報告の方向で動いているということです。

何か、ほかには。よろしいですか。

それでは、次に使用者委員のほうからは何かございますでしょうか。

【平岡使用者委員】

半年ぶりに一等機関士の職員を募集しました。前回の9月には、1人の採用に対して19人の応募者がいましたが、結局採用に至らず、退職した職員にお願いして再度乗ってもらい、しのぎました。今回も応募者が15人いましたが、15人のうち4人は前回と同じ方で採用に至らず、その他の方については、就職が決まったとか、連絡がとれないとか、実際には奉職できる人間が極めて少ないという状況で、今回も採用を断念いたしまして、引退した職員にまたお願いして乗ってもらうことになりました。2回連続して採用できないということは、かなり深刻な船員不足なのかなと感じています。

それから、同業他社の情報ですが、タンカー船において、油送所の休憩所で船員同士が労働条件・給料の話をして、船員が他社の船員を引き抜く行為が今結構多く

あるようです。「今の条件よりもいい条件でうちの会社に来ないか。」と船員が自ら募集して、それが成立すると会社はその船員に手当をあげるそうです。だから、その船員も頑張ります。他社の船員の条件を聞いて、それに上乘せするわけですから、かなり高い確率だそうです。会社が募集するよりも船員のほうが話しやすいため、このような事態がタンカー船で起こっているそうです。

もう一つは、ちょっと悪質な事例ですが、振り込め詐欺についてです。例えば九州の船員とかを名乗って、東京の会社に面接の希望を伝え、旅費を要求する。それで会社は4～5万の旅費を送るが、約束した日時になっても現れないし、電話しても出ない。4～5万だから警察に訴えるのもまた面倒なので、結局泣き寝入りになります。数件発生しているそうです。船員がいないところを突いて、悪質な人間も出ているのかなというところですよ。

以上です。

【長谷部部会長】

詐欺というのは、雇用者のことですか。

【平岡使用者委員】

面接を受験したいと言った人間ことです。

例えば私は九州なんだけど、東京の会社を受験したいので、旅費を払ってください、振り込んでくださいと言うわけです。ところが、振り込んでも約束の日時に現れないし、ケータイに電話しても全然出ないということです。

【長谷部部会長】

なるほど、わかりました。

【平岡使用者委員】

それだけ船員不足が深刻なんです。

その会社としては、面接に来てくれるとありがたいので、ぜひ来てくださいと旅費を振り込んでしまいます。

昔だったら考えられないことです。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。平岡委員のほうから、船員不足に伴うさまざまな問題についてご報告いただきましたが、関連するようなことはありますか。対策はないですよ。外から新しい労働力が入ってこないで辞めていくだけという構造の中で起こってくるということですね。漁船、内航、その他もろもろ、皆同じ状況ですね。

何か事務局のほうから、それに関する情報等がございましたか。注意しておくべきこと等も含めまして。

【澤村船員労政課長】

特にございません。

【長谷部部会長】

事実は事実として受け止めてということですね、ありがとうございます。

【佐々木公益委員】

今のお話の中の前のほうで、船員さんが船員さんを引き抜くと言われましたが、これは何か法的に違法になりますか。

【平岡使用者委員】

別に違法ではないと思いますが。

【澤村船員労政課長】

紹介、縁故とかで成立するという場合もあります。

【平岡使用者委員】

そこで手当を払うというのは問題なのかもしれません。

【長谷部部会長】

それはこの業界の常ですよ。

そういうものだという認識でよろしいですか。あまり変なことが起こってくると、それはどこかに抵触するかもしれないということですね。

ほかにはいかがですか。

【齋藤使用者委員】

我々の業界でも同じような例がありまして、漁船、漁業のほうでは本年は5年に一遍、マグロであったり、まき網、沖合、底引き、サンマ等々農林水産大臣の指定漁業の許可の更新がありますが、先般、その許可の総隻数の公示があったんですけども、各漁業とも5年前と比べると相当船の数が減っている現状でございます。全体的に人の数が減っている中で、食べる量も減っているから、ある程度減るのはやむを得ない部分はありますが、それを超えるペースで漁船の数がどんどん減っています。その船の数が減っているにもかかわらず、乗組員が足りないというわけです。乗組員が減っているということについては、無論我々業界の責任というか、やるべきことも相当あると思いますが、ただ、特に学校の先生の皆さんには、漁業の役割、海運の役割が、どうも正当に評価されていないのかなという思いもありますので、今後どうなるか暗澹（あんたん）たる思いになります。

あまりいい情報ではありませんが。

【長谷部部会長】

日本経済全体が労働力不足ですから、本当だったら好景気で高度経済成長になるのですが、そうならないような状況です。人手不足が大きな社会問題であり、日本経済全体が新たな状況に直面しているのだとは思いますが、それにしてもこの業界はちょっときつい状況なのかなと思います。いろいろなところで、皆様からご高配を賜りますよう、お願いいたします。

そのほかにございますでしょうか。

【高橋（真）部会長代理】

旅費の振り込め詐欺があるとは思いませんでした。

先ほど漁船が減少して、さらに船員が減っているということですが、国民全体と

して魚を食べる量が総じて減っているのか、また、マーケットとして日本だけではなく、外国でも、特に中国など今まで食べなかったところが食べ始めているという現状を考えると、需要と供給の関係がどうなっているのかが気になります。

【齋藤使用者委員】

諸外国は比較的魚を食べる量は増えていると思いますが、日本は減っています。過去において、日本が相当食べていましたが、諸外国ではあんまり食べられていませんでした。日本で食べる量が相当に減っている状況というのは、例えばマグロの場合、かつて量販店では柵で売っていたのですが、最近は盛り合わせでないと売れないという状況です。家庭で食べる場合はほとんどが盛り合わせであって、あとは外食で食べるという傾向にあるので、魚を食べる量は相当減っていると思います。

外国の消費が増えているので、国は海外に売っていけという方向性はあるのですが、今のところ海外に売れているのはサバぐらいじゃないですか。

【長谷部部長】

東南アジアでは、サバは欲しそうですからね。

【齋藤使用者委員】

サバは東南アジア、それからアフリカとかに日本から相当出ています。

一方で変なことになっているのですが、日本のスーパー等で売られ、あるいは外食で皆さんが食べているサバは、ノルウェー辺りのサバが多いのです。ノルウェーのサバというのは、脂の含有が多いので値段もいいです。わざわざヨーロッパから高いサバを買って、一方では日本でとれるサバは脂の薄いサバが多いので、それをアフリカ等の安いマーケットで売っているという、やや変なことが起こっています。

【高橋（真）部会長代理】

「とる漁業からつくる漁業へ」ということで、養殖のほうにシフトしているという話がありますが、漁獲高全体として一定なのでしょう。養殖が増えることによって、「とる漁業」の割合がどの程度減っているのかわからないのですが。

【齋藤使用者委員】

養殖が増えているということは相当あります。ただ、その「つくる漁業」という言葉は、非常に耳ざわりはいいのですが、結局、餌等は「とる漁業」に依存しています。私なんかは「とる漁業」の側にいますので、養殖はやや批判的には見ていません。

養殖はいろいろな問題があって、餌等では、例えばマグロを10キロ太らせるにはサバ、イワシを120キロぐらい食わせなきゃいけない、あるいは養殖は真水も使ったりします。あと、最近は欧米でもサーモンなどの養殖が多いですが、それが生けすから逃げて、天然の魚とさまざまな問題が起こったりしています。また、養殖というのは、一般的に天然では起こり得ないような過密な状態で飼うわけですから、抗生物質等の薬を与えなきゃいけないとかの問題もあります。

全ての養殖を否定する訳ではありません。私もウナギは好きですが、天然物は食

えないので養殖を認めざるを得ません。ただ、あまりに養殖に期待するのは、問題が大きいと思っています。

【高橋（真）部会長代理】

養豚とか養鶏の関係では、耐性菌について15年ぐらい前から問題になっています。今の子供たちは、狭いところで飼育された、抗生物質を混ぜた餌で飼育された肉を食べているので、小学生の段階で風邪とかインフルエンザになったときに、抗生物質が効かない子が増えているということが、小児科医の間で定着した話となっています。

【長谷部部会長】

そもそも業界としては、「つくる漁業」と「とる漁業」というのはバッティングするのですか。

【齋藤使用者委員】

マグロの世界でいいますと、現在のマーケットでは赤身のマグロは高く、脂ものは安いです。脂ものは、養殖物が天然物を抑えています。天然物のほうが脂は薄くて健康的とか、養殖物のほうが脂は乗っているとか言われています。また、マーケットでは脂が乗っているものが全ていいというようなことが言われています。それも誤りというか幻想というか、問題があるとは思っていますが、テレビなどでもそう言われています。

【長谷部部会長】

必ずしもすみ分けはできていない、やっぱり競合関係にあるということですね。ありがとうございます。

ほかにいかがですか。まだ発言のない方、よろしいですか。

ほかにありませんでしたら、本日の、新年度最初の船員部会の議事はここで終了とさせていただきます。ありがとうございます。

次回の船員部会ですが、5月26日の午後3時半から、会場はここ4階の会議室で開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎閉 会